



2023年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年5月11日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社マーベラス
 コード番号 7844 URL <https://corp.marv.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 澄宣
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理統括本部長 (氏名) 加藤 征一郎 E-mail ir@marv.jp
 定時株主総会開催予定日 2023年6月20日 配当支払開始予定日 2023年6月6日
 有価証券報告書提出予定日 2023年6月20日
 決算補足説明資料作成の有無： 有
 決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期の連結業績（2022年4月1日～2023年3月31日）

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期	25,341	△1.5	2,488	△45.9	2,931	△42.0	1,925	△49.6
2022年3月期	25,728	0.8	4,600	4.2	5,054	10.9	3,817	16.9

(注) 包括利益 2023年3月期 2,192百万円 (△47.5%) 2022年3月期 4,173百万円 (22.4%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2023年3月期	31.85	—	6.6	8.0	9.8
2022年3月期	63.23	—	13.7	14.4	17.9

(参考) 持分法投資損益 2023年3月期 -百万円 2022年3月期 -百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期	36,447	29,227	80.1	482.69
2022年3月期	36,531	28,973	79.2	479.23

(参考) 自己資本 2023年3月期 29,187百万円 2022年3月期 28,939百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2023年3月期	976	△3,457	△2,007	12,553
2022年3月期	2,820	△1,094	△2,007	16,431

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2022年3月期	—	0.00	—	33.00	33.00	2,007	52.2	7.2
2023年3月期	—	0.00	—	33.00	33.00	2,007	103.6	6.9
2024年3月期(予想)	—	0.00	—	33.00	33.00		79.2	

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	27,000	6.5	3,500	40.7	3,600	22.8	2,520	30.9	41.67

(注) 当社は、年次での業績管理を行っておりますので、第2四半期(累計)の業績予想の記載を省略しております。

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー社 （社名）、除外 ー社 （社名）

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
② ①以外の会計方針の変更： 無
③ 会計上の見積りの変更： 無
④ 修正再表示： 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期	62,216,400株	2022年3月期	62,216,400株
② 期末自己株式数	2023年3月期	1,747,846株	2022年3月期	1,828,646株
③ 期中平均株式数	2023年3月期	60,436,234株	2022年3月期	60,376,634株

(注) 期末自己株式数については、「株式給付信託（BBT）」の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行（信託E口）が所有している375,300株を含めて記載しております。

(参考) 個別業績の概要

2023年3月期の個別業績（2022年4月1日～2023年3月31日）

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期	21,870	8.5	2,149	△11.2	2,685	△13.0	1,833	△26.8
2022年3月期	20,158	1.3	2,420	△5.6	3,085	13.0	2,503	29.3

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期	30.33	—
2022年3月期	41.46	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円 銭		
2023年3月期	30,681		24,099		78.5	398.54		
2022年3月期	30,714		24,287		79.1	402.18		

(参考) 自己資本 2023年3月期 24,099百万円 2022年3月期 24,287百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 連結貸借対照表	5
(2) 連結損益及び包括利益計算書	7
(3) 連結株主資本等変動計算書	8
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	10
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(収益認識関係)	11
(セグメント情報等)	12
(1株当たり情報)	15
(重要な後発事象)	15

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度におけるエンターテインメント業界は、国内家庭用ゲーム市場におきましては、ゲーム機本体の品薄に解消の兆しが見られ、ハード市場を中心に好調に推移いたしました。モバイルゲーム市場におきましては、新規参入タイトルにおいて一部ヒット作品が出ましたが、市場が成熟する中、既存タイトルを含めた厳しい競争環境が続いております。国内アミューズメント市場におきましては、新型コロナウイルス感染症第7波の影響により7月から8月にかけて集客が一時的に減少したものの、プライズ（景品）ゲームを中心に好調に推移し、コロナ禍以前の水準まで市場規模が回復いたしました。音楽映像市場におきましては、パッケージ市場の縮小傾向が続く中、好調であった動画配信市場におきましても、巣ごもり需要の縮小により動画配信サービス間の競争が激化いたしました。ライブエンターテインメント市場におきましては、行動制限の緩和により観客動員が改善傾向にありますが、コロナ禍前の水準への回復には時間を要している状況です。

このような状況下、当社グループは、多彩なエンターテインメントコンテンツをあらゆる事業領域において様々なデバイス向けに展開する「マルチコンテンツ・マルチユース・マルチデバイス」戦略を基軸とした総合エンターテインメント企業として、強力なIPの確立に向けたブランディング戦略・アライアンス戦略・グローバル戦略を積極的に推進し、話題性の高いコンテンツの提供とサービスの強化に取り組んでまいりました。

この結果、当期（2022年4月1日～2023年3月31日）の業績は、売上高25,341百万円（前期比1.5%減）、営業利益2,488百万円（前期比45.9%減）、経常利益2,931百万円（前期比42.0%減）、親会社株主に帰属する当期純利益1,925百万円（前期比49.6%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

なお、当連結会計年度より報告セグメントを変更しており、比較・分析は変更後の区分に基づいております。

① デジタルコンテンツ事業

当事業のコンシューマ部門におきましては、「牧場物語」シリーズの最新作で、2003年に発売された『牧場物語 ワンダフルライフ』のリメイク作品である『牧場物語 Welcome! ワンダフルライフ』を2023年1月26日に発売し、好調なセールスを記録いたしました。また、「ルーンファクトリー」シリーズの最新作で、2009年に発売された『ルーンファクトリー3』のリメイク作品である『ルーンファクトリー3 スペシャル』を2023年3月2日に発売いたしました。一方、完全新作ゲーム『DEADCRAFT（デッドクラフト）』を、2022年5月19日に全世界同時に配信開始いたしました。目標を下回る販売推移となりました。また、国内外でのタイトルのラインナップ不足に加え、特に欧米市場における経済環境の悪化などにより、前期と比べて販売が減少いたしました。

オンライン部門におきましては、2022年10月20日に配信を開始したスマートフォン向け新作ゲーム『ドルフィン ウェーブ』が好調に推移し、下期において大きく業績貢献いたしました。また、『剣と魔法のログレス いにしえの女神』や『シノビマスター 閃乱カグラ NEW LINK』、『ブラウザ三国志』といった長期運営タイトルにつきましては、経年により売上が減少したものの、堅実に収益貢献いたしました。一方、2023年2月27日に配信を開始したスマートフォン向け新作ゲーム『サクライグノラムス』が想定を大きく下回る推移となり、ゲーム資産残高を一括償却いたしました。

この結果、当事業の売上高は14,138百万円（前期比8.3%減）、セグメント利益は779百万円（前期比80.1%減）となりました。

② アミューズメント事業

当事業におきましては、主力であるキッズアミューズメントマシン『ポケモンメザスタ』が、2022年4月に稼働を開始した「スーパータッグ5弾」をはじめ、それぞれ同年7月、9月、11月、2023年2月に稼働を開始した「ダブルチェイン」各弾が非常に好調に推移し、2007年の『ポケモンバトリオ』から展開しているポケモンキッズアミューズメントマシンにおいて、過去最高の売上を達成いたしました。また、海外展開の『ポケモンガオーレ』におきましても、一部地域で新型コロナウイルス感染症による影響があったものの、概ね順調に推移いたしました。

この結果、当事業の売上高は7,801百万円（前期比23.9%増）、セグメント利益は2,786百万円（前期比56.4%増）となりました。

③ 音楽映像事業

当事業の音楽映像制作部門におきましては、TVアニメ『デリシャスパーティ♡プリキュア』をはじめとした、プリキュアシリーズのTVアニメや映画、関連イベントのパッケージ商品化を行ったほか、TVアニメ『アオアシ』を2022年4月より、TVアニメ『吸血鬼すぐ死ぬ2』を2023年1月より放送し、それぞれパッケージ商品化を行いました。また、アニメ『刀剣乱舞-花丸-』シリーズの新作三部作「特『刀剣乱舞-花丸-』～雪月華～」を2022年5月、7月、9月に、「映画刀剣乱舞」の第2弾となる「映画刀剣乱舞-黎明-」を、2023年3月31日より劇場公開いたし

ました。

ステージ制作部門におきましては、「舞台『刀剣乱舞』」、「ミュージカル『テニスの王子様』」、「ワールドトリガー the Stage」、「ミュージカル『憂国のモリアーティ』」等のシリーズ最新公演や、今期の完全新作として、「『東京カラーソニック!!』the Stage」、「舞台『鋼の錬金術師』」等の公演を実施いたしました。

パッケージ販売の低下などにより売上が減少いたしました。また、配信収入の増加や、行動制限の緩和による観客動員の回復傾向、コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金等の計上などにより、前期比で増益となりました。

この結果、当事業の売上高は3,400百万円（前期比15.4%減）、セグメント利益は537百万円（前期比7.1%増）となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

当社グループの当連結会計年度末の財政状態につきましては以下のとおりであります。

当連結会計年度末の資産残高は、仕掛品の増加等があったものの、現金及び預金の減少等により、前連結会計年度末に比べ84百万円減少し、36,447百万円となりました。

当連結会計年度末の負債残高は、契約負債の減少等により、前連結会計年度末に比べ338百万円減少し、7,219百万円となりました。

当連結会計年度末の純資産は、親会社株主に帰属する当期純利益1,925百万円を計上したこと等により、前連結会計年度末に比べ253百万円増加し、29,227百万円となりました。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ3,878百万円減少し、12,553百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、税金等調整前当期純利益2,932百万円、減価償却費2,569百万円等があったものの、棚卸資産の増加3,593百万円、法人税等の支払額等1,317百万円により、976百万円（前期比1,844百万円減）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果支出した資金は、定期預金の払戻による収入677百万円があったものの、定期預金の預入による支出2,032百万円、有形固定資産の取得による支出310百万円、無形固定資産の取得による支出1,731百万円等により、3,457百万円（前期比2,363百万円増）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果支出した資金は、配当金の支払額2,007百万円により2,007百万円（前期比0百万円減）となりました。

（参考）キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
自己資本比率 (%)	76.1	76.6	79.9	79.2	80.1
時価ベースの自己資本比率 (%)	168.4	105.3	155.3	119.3	109.5
キャッシュ・フロー 対有利子負債比率 (年)	2.7	9.0	3.7	5.7	16.4
インタレスト・カバレッジ・ レシオ (倍)	6,488.9	2,233.0	3,557.5	2,839.2	352.7

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

(注) 1 いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

2 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しております。

3 キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しております。

4 有利子負債は連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

(4) 今後の見通し

デジタルコンテンツ事業のコンシューマゲームにおきましては、完全新作のジュブナイルRPG『LOOP8 (ループエイト)』を2023年6月1日に、弾幕アクションRPG『東方シンセカイ』を同年7月に、ファッション&コミュニケーションゲーム『ファッションドリーマー』を2023年に発売予定であります。また、前期に国内で発売した『牧場物語 Welcome! ワンダフルライフ』と『ルーンファクトリー3 スペシャル』の北米・欧州・Steam®版を、海外子会社より順次発売いたします。

オンラインゲームにおきましては、長期運営タイトルの売上維持に努めるとともに、前期の新作『ドルフィンウェーブ』の好調を継続できるよう運営に注力してまいります。

アミューズメント事業におきましては、主力の『ポケモンメザスタ』が2023年4月20日より新弾「ダブルチェイン5弾」の稼動を開始し、引き続き好調に推移しております。『ポケモンガオーレ』の海外展開につきましては、今後も各国・地域において積極的な販促施策を展開予定です。さらに、アミューズメントマシンの新機種の開発も進めており、引き続き国内外における当事業分野での当社プレゼンス拡大に努めてまいります。

音楽映像事業におきましては、人気漫画を原作としたTVアニメ『女神のカフェテラス』が2023年4月7日より放送中であります。さらに、今年で20周年となる「プリキュア」シリーズにつきましては、劇場版最新作の公開を同年9月に、大人向けの新作アニメの放送を同年10月から予定しております。また、ドラマと音楽を融合させた新規プロジェクト『レモンスカッシュスコア』を始動し、同年5月24日に第1弾シングルCDを発売いたします。舞台公演におきましては、今年20周年を迎える「ミュージカル『テニスの王子様』」、7周年を迎える「舞台『刀剣乱舞』」の最新公演に加え、周年イベントなどを開催予定であるほか、今期の新作タイトルとして『吸血鬼すぐ死ぬ』や、オリジナルストーリーによる「プリキュア」の舞台化作品の公演を計画しております。このほかにも、今期も多数のシリーズ新作公演を準備しております。

以上より、2024年3月期の通期連結業績につきましては、売上高27,000百万円、営業利益3,500百万円、経常利益3,600百万円、親会社株主に帰属する当期純利益2,520百万円を見込んでおります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社では、日本基準を適用して連結財務諸表等を作成しております。IFRSの任意適用について検討をしているものの、同業他社との比較可能性の確保の観点や、海外市場での資金調達の可能性から総合的に勘案し、日本基準の適用を継続していく予定であります。なお、今後もIFRSの任意適用に関する検討は進めていく所存です。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,431	13,888
受取手形	53	—
売掛金	3,777	3,551
契約資産	490	—
電子記録債権	196	212
有価証券	—	400
商品及び製品	125	279
仕掛品	4,338	7,443
原材料及び貯蔵品	127	316
映像コンテンツ	4	2
その他	2,560	2,365
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	28,106	28,460
固定資産		
有形固定資産		
建物	334	335
減価償却累計額	△256	△270
建物(純額)	77	65
車両運搬具	26	25
減価償却累計額	△14	△17
車両運搬具(純額)	12	8
工具、器具及び備品	2,206	2,439
減価償却累計額	△1,987	△2,157
工具、器具及び備品(純額)	219	281
リース資産	1,998	1,225
減価償却累計額	△1,420	△1,054
リース資産(純額)	578	170
有形固定資産合計	887	525
無形固定資産		
のれん	196	155
ソフトウェア	367	659
ソフトウェア仮勘定	659	185
その他	1	1
無形固定資産合計	1,225	1,001
投資その他の資産		
投資有価証券	4,610	4,183
長期貸付金	—	64
破産更生債権等	10	11
敷金及び保証金	102	101
繰延税金資産	1,590	2,139
その他	15	40
貸倒引当金	△16	△81
投資その他の資産合計	6,312	6,460
固定資産合計	8,425	7,986
資産合計	36,531	36,447

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,544	1,644
短期借入金	160	160
未払金	1,177	1,289
未払印税	1,182	984
未払法人税等	670	1,122
契約負債	1,432	902
賞与引当金	519	427
役員賞与引当金	79	—
その他	376	350
流動負債合計	7,143	6,880
固定負債		
長期未払金	114	114
繰延税金負債	—	0
株式給付引当金	91	58
役員株式給付引当金	136	94
資産除去債務	71	71
固定負債合計	414	338
負債合計	7,557	7,219
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,611	3,611
資本剰余金	8,744	8,744
利益剰余金	18,072	17,989
自己株式	△1,899	△1,830
株主資本合計	28,529	28,515
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1	△84
為替換算調整勘定	412	756
その他の包括利益累計額合計	410	671
非支配株主持分	34	39
純資産合計	28,973	29,227
負債純資産合計	36,531	36,447

(2) 連結損益及び包括利益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
売上高	25,728	25,341
売上原価	12,901	13,868
売上総利益	12,827	11,473
販売費及び一般管理費	8,227	8,984
営業利益	4,600	2,488
営業外収益		
受取利息	57	184
為替差益	396	312
貸倒引当金戻入額	0	0
その他	3	15
営業外収益合計	459	513
営業外費用		
支払利息	0	2
貸倒引当金繰入額	0	64
その他	3	1
営業外費用合計	5	69
経常利益	5,054	2,931
特別利益		
固定資産売却益	0	0
関係会社株式売却益	10	—
特別利益合計	11	0
税金等調整前当期純利益	5,065	2,932
法人税、住民税及び事業税	1,066	1,509
法人税等調整額	179	△507
法人税等合計	1,246	1,001
当期純利益	3,819	1,930
(内訳)		
親会社株主に帰属する当期純利益	3,817	1,925
非支配株主に帰属する当期純利益	1	5
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7	△82
為替換算調整勘定	361	344
その他の包括利益合計	354	261
包括利益	4,173	2,192
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	4,172	2,186
非支配株主に係る包括利益	1	5

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	3,611	8,744	16,262	△1,923	26,695
当期変動額					
剰余金の配当			△2,007		△2,007
親会社株主に帰属する当期純利益			3,817		3,817
自己株式の処分				23	23
連結子会社株式の取得による持分の増減					—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					—
当期変動額合計	—	—	1,810	23	1,833
当期末残高	3,611	8,744	18,072	△1,899	28,529

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	5	50	55	0	26,751
当期変動額					
剰余金の配当					△2,007
親会社株主に帰属する当期純利益					3,817
自己株式の処分					23
連結子会社株式の取得による持分の増減				32	32
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△7	361	354	1	355
当期変動額合計	△7	361	354	33	2,222
当期末残高	△1	412	410	34	28,973

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	3,611	8,744	18,072	△1,899	28,529
当期変動額					
剰余金の配当			△2,007		△2,007
親会社株主に帰属する当期純利益			1,925		1,925
自己株式の処分				69	69
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					—
当期変動額合計	—	—	△82	69	△13
当期末残高	3,611	8,744	17,989	△1,830	28,515

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	△1	412	410	34	28,973
当期変動額					
剰余金の配当					△2,007
親会社株主に帰属する当期純利益					1,925
自己株式の処分					69
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△82	344	261	5	267
当期変動額合計	△82	344	261	5	253
当期末残高	△84	756	671	39	29,227

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	5,065	2,932
減価償却費	1,353	2,569
映像コンテンツ償却額	99	165
のれん償却額	10	41
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	0	64
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△189	△98
株式給付引当金の増減額 (△は減少)	61	△33
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△61	△82
役員株式給付引当金の増減額 (△は減少)	26	△42
受取利息	△57	△184
支払利息	0	2
固定資産売却損益 (△は益)	△0	△0
関係会社株式売却損益 (△は益)	△10	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△694	864
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△2,012	△3,593
仕入債務の増減額 (△は減少)	479	91
未払金の増減額 (△は減少)	△328	132
未払印税の増減額 (△は減少)	△198	△231
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△18	70
その他	506	△492
小計	4,030	2,176
利息及び配当金の受取額	63	120
利息の支払額	△0	△2
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△1,272	△1,317
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,820	976
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△2,032
定期預金の払戻による収入	—	677
有形固定資産の取得による支出	△214	△310
有形固定資産の売却による収入	3	1
無形固定資産の取得による支出	△856	△1,731
投資有価証券の取得による支出	△3	—
投資有価証券の売却による収入	—	1
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△138	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	115	—
敷金及び保証金の差入による支出	△0	△1
敷金及び保証金の回収による収入	0	2
長期貸付けによる支出	—	△95
長期貸付金の回収による収入	—	30
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,094	△3,457
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△2,007	△2,007
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,007	△2,007
現金及び現金同等物に係る換算差額	310	610
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	28	△3,878
現金及び現金同等物の期首残高	16,403	16,431
現金及び現金同等物の期末残高	16,431	12,553

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計
	デジタルコンテンツ事業	アミューズメント事業	音楽映像事業	
コンシューマゲーム関連	9,192	—	—	9,192
オンラインゲーム関連	6,217	—	—	6,217
アミューズメントゲーム関連	—	6,298	—	6,298
音楽・映像コンテンツ関連	—	—	1,466	1,466
舞台公演関連	—	—	2,553	2,553
顧客との契約から生じる収益	15,410	6,298	4,020	25,728
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	15,410	6,298	4,020	25,728

当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計
	デジタルコンテンツ事業	アミューズメント事業	音楽映像事業	
コンシューマゲーム関連	6,185	—	—	6,185
オンラインゲーム関連	7,953	—	—	7,953
アミューズメントゲーム関連	—	7,801	—	7,801
音楽・映像コンテンツ関連	—	—	1,147	1,147
舞台公演関連	—	—	2,253	2,253
顧客との契約から生じる収益	14,138	7,801	3,400	25,341
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	14,138	7,801	3,400	25,341

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、製品・サービス別のセグメントから構成されており、「デジタルコンテンツ事業」、「アミューズメント事業」及び「音楽映像事業」の3つを報告セグメントとしております。

「デジタルコンテンツ事業」においては、当社グループが発売元となる家庭用ゲーム機、スマートフォン、PC、モバイル等に向けたゲームコンテンツの企画・開発・販売・サービス運営を行っています。加えて、蓄積された高度な開発技術を背景に、業界他社がリリースするゲームコンテンツの開発受託を行っています。

「アミューズメント事業」においては、アミューズメント施設運営会社向けに、業務用機器や商品の企画・開発・販売を行っており、強力なIPとのアライアンスを推進するほか、オリジナルゲーム機の企画・開発にも注力しています。

「音楽映像事業」においては、アニメーションを中心とした音楽・映像コンテンツの制作・プロデュースを行い、音楽・映像商品化から、配信ビジネスやキャラクター商品化といった二次利用へのマルチユース展開を積極的に行っています。加えて、漫画やアニメーション、ゲームの人気作品を原作にした舞台興行作品の制作・プロデュースにより興行ビジネスを手掛け、ライブエンターテインメントと音楽・映像との融合を図り、コンテンツの多面的な展開を推進しています。

当連結会計年度より、報告セグメントを従来の「オンライン事業」、「コンシューマ事業」、「音楽映像事業」から「デジタルコンテンツ事業」、「アミューズメント事業」、「音楽映像事業」に変更しております。

なお、前連結会計年度のセグメント情報については、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成のために採用している会計処理の方法と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	デジタルコン テンツ事業	アミューズメ ント事業	音楽映像事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	15,410	6,298	4,020	25,728	—	25,728
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	15,410	6,298	4,020	25,728	—	25,728
セグメント利益	3,918	1,781	501	6,200	△1,599	4,600
セグメント資産	13,624	2,328	2,140	18,093	18,438	36,531
その他の項目						
減価償却費	611	647	2	1,261	91	1,353
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	823	174	1	998	81	1,080

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△1,599百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,599百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- (2) セグメント資産の調整額18,438百万円は、主に提出会社の余資運用資金（現金及び預金）及び管理部門に係る資産であります。
- (3) 減価償却費の調整額91百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。
- (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額81百万円は、主に本社管理部門に係る資産の増加額であります。

2 セグメント利益は、連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	デジタルコン テンツ事業	アミューズメ ント事業	音楽映像事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	14,138	7,801	3,400	25,341	—	25,341
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	14,138	7,801	3,400	25,341	—	25,341
セグメント利益	779	2,786	537	4,102	△1,614	2,488
セグメント資産	15,972	2,220	1,773	19,965	16,481	36,447
その他の項目						
減価償却費	1,795	680	1	2,476	92	2,569
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	1,646	245	—	1,892	134	2,026

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△1,614百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,614百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- (2) セグメント資産の調整額16,481百万円は、主に提出会社の余資運用資金（現金及び預金）及び管理部門に係る資産であります。
- (3) 減価償却費の調整額92百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。
- (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額134百万円は、主に本社管理部門に係る資産の増加額であります。

2 セグメント利益は、連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
1株当たり純資産額	479.23円	482.69円
1株当たり当期純利益	63.23円	31.85円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

- 2 「株式給付信託 (BBT)」制度に関する株式会社日本カストディ銀行 (信託E口) が所有する自社の株式は、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めており、また、1株当たり純資産額の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式数に含めております。
1株当たり当期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は、前連結会計年度467,220株、当連結会計年度407,620株であり、1株当たり純資産額の算定上、控除した当該自己株式の期末株式数は、前連結会計年度456,100株、当連結会計年度375,300株であります。

- 3 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	3,817	1,925
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	3,817	1,925
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式の期中平均株式数 (株)	60,376,634	60,436,234

- 4 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
純資産の部の合計額 (百万円)	28,973	29,227
純資産の部の合計額から控除する金額 (百万円)	34	39
(うち新株予約権 (百万円))	(—)	(—)
(うち非支配株主持分 (百万円))	(34)	(39)
普通株式に係る純資産額 (百万円)	28,939	29,187
普通株式の発行済株式数 (株)	62,216,400	62,216,400
普通株式の自己株式数 (株)	1,828,646	1,747,846
1株当たり純資産額の算定に用いられた 普通株式の数 (株)	60,387,754	60,468,554

(重要な後発事象)

該当事項はありません。